

再生可能エネルギーの新聞づくりを通して

文章と図表を結びつけたり，効果的な論の進め方を考えたりさせる。

第6学年2組 国語科学習指導案

指導者 島田 理央

1. 単元名 え？雪がエネルギーってほんと？
2. 学習材 「雪は新しいエネルギー」（教育出版 6年国語上）
『かがやけ！みんなのエネルギー』（経済産業省資源エネルギー庁） 資料集
3. 単元について

(1) 本単元でつけたい力

本単元では，主に，小学校学習指導要領・国語〔第5学年及び第6学年〕の「C読むこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

〔知識及び技能〕

(2) 情報の扱いに関する事項

情報の扱いに関する事項 イ 情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

〔思考力・判断力・表現力等〕

C 読むこと

内容	ア 事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
	ウ 目的に応じて，文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり，論の進め方について考えたりすること。
	オ 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。
言語活動例	ウ 学校図書館などを利用し，複数の本や新聞などを活用して，調べたり考えたりしたことを報告する活動。

本単元では，教材文「雪は新しいエネルギー」を読んで，文章全体の構成を捉えて要旨を把握し，理解したことを新聞にまとめていく。教材文に書かれている冷熱エネルギーのことだけではなく，広い視野で再生可能エネルギーを捉えられるように，資料集『かがやけ！みんなのエネルギー』や館山市図書館の図書も並行読書として活用していく。

これらの学習を通して，教材文の要旨を捉えて要約をしたり，自分で得た情報を文章と関係付けて新聞にまとめたりする力を付けさせていきたい。

(2) 単元の目標

【知識・技能】・・・㊸

○教材文「雪は新しいエネルギー」と資料集を読み取り，得られた情報を基に自分が作成する新聞に図示することができる。(1 (2) イ)

【思考・判断・表現】・・・㊹

○事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，教材文『雪は新しいエネルギー』の構成を捉えて要旨を把握することができる。(2 C (1) ア)

○目的に応じて，文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり，論の進め方について考えたりすることができる。(2 C (1) ウ)

○教材文「雪は新しいエネルギー」を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをノートや個人で作成する新聞にまとめることができる。(2 C (1) オ)

【主体的に学習に取り組む態度】・・・㊺

○再生可能エネルギーについて関心をもって文章を読もうとしたり，グループで話し合いながら新聞をつくったりしている。

(3) 本単元で行う言語活動

本単元では、教材文「雪は新しいエネルギー」を読んだ後、要旨を捉えて要約をした文章と、自分で得た情報を関係付けて新聞にまとめる言語活動を行う。これは、小学校学習指導要領「C 読むこと」における、言語活動例「ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。」を踏まえている。この単元で扱う教材文「雪は新しいエネルギー」には、筆者のエネルギーに対する新たな認識の提示があったり、主張の根拠となる事例がいくつも提示されたりしている。再生可能エネルギーについて、これらの様々な視点を参考に自分の考えを拡げることが期待できる。そこで、様々な情報を一枚にまとめることができる新聞づくりが本学習の言語活動に適していると考えた。新聞にまとめる情報については、資料集『かがやけ！みんなのエネルギー』（経済産業省資源エネルギー庁発行・2019年12月）館山市図書館のエネルギーに関する図書、インターネットの活用を考えている。活用の際には、必ず新聞に「出典」の記載をするよう意識させる。どの資料を使うかは、全体指導計画の7時間目の「編集会議」でグループの友だちと話し合い決定する。

グループで新聞をつくる前に、個人で教材文「雪は新しいエネルギー」を読んで新聞づくりを行い、新聞へのまとめ方や資料の活用の仕方等を学ばせる。作成にあたっては1時間目に提示する教師モデルを参考にさせる。個人で新聞をつくる際には、A4の紙（向きは縦とする）を使用する。教材文に載っている図表や写真についてはあらかじめ全員分用意をしておいて、すぐに活用できるようにする。個人で新聞をつくる時間を設定することによって、グループでの活動になった時に新聞の構成や、載せる内容の検討がスムーズに話し合われると考える。また6時間目には教師モデルや他の学校の児童が作成した新聞の分析を通して、効果的な新聞の構成を考える時間とする。グループで構成を考える際のツールとしてグループに1つA3程度のホワイトボードを用意する。このホワイトボードを活用しながら、新聞のどこに何を載せていくのかを話し合えるようにする。

グループでの新聞作りはA2の紙（向きは縦）を使用する。1人1台のタブレットを使用してもよいとする。タブレットを使用する際には、同じ時間に複数の子どもが編集できるようにMicrosoft社のTeamsのアプリ内にある共同編集機能を使う。手書きをする際には、新聞を同時に編集することが困難なため様々な割り付け（題号・見出し・本文・写真・まとめ等）の用紙を準備しておく。割り付けの用紙は、子どもたちのその時の必要に応じて編集ができるように罫線があるもの、罫線がないもの、白紙、様々なものを準備する。グループの人数は、基本的に3人とする。3人とすることで、ペアやそれ以上の人数よりも話し合いがスムーズに行われると考えている。

グループ毎の新聞づくりを終えたら、経済産業省資源エネルギー庁主催のコンテストへ応募をする。紙面の見やすさ、文字の大きさ、図やイラストの説明などの表現の工夫がされているか、エネルギーに関する記述が現在の事実に基づいているか等の審査ポイントにより年度毎の大賞が決まっているので子どもたちの関心・意欲を高めたり、読者に伝わるように書いたりするきっかけになるだろう。

(4) 学習材について

本単元の共通学習材として、「雪は新しいエネルギー」を用いる。この学習材は、雪の冷熱エネルギーの利用について身近で具体的な例を複数取り上げたり、図表を用いたりしながら説明している文章である。これまでに学習してきた説明文のように解決に向かって一直線に展開をしている文章ではない。また、それに加え雪の保存という課題や今後の課題にも触れるなど多角的な視点で説明をすることで、自らの主張に説得力をもたせている。

第一段落	始め→P 5 1 L 8	問題提起と解決の方向
第二段落	P 5 1 L 1 0→P 5 2 L 8	解決のもとになる考え「雪はエネルギー」
第三段落	P 5 2 L 9→P 5 4 L 4	雪エネルギーの利用例「氷室」
第四段落	P 5 4 L 5→P 5 5 L 1 0	雪エネルギーの利用例「雪冷房」
第五段落	P 5 5 L 1 1→P 5 5 L 1 4	雪エネルギー利用のまとめ
第六段落	P 5 6 L 1→P 5 7 L 1 4	雪エネルギーの利用と雪国の暮らし
第七段落	P 5 8 L 1→P 5 9 L 8	問題に対する筆者の主張

これらのことから、本単元でねらう自分の読む目的に応じて、筆者の論の進め方に着目したり、複数の情報を取捨選択したりしながら学習を進めていくことに適した教材だと言える。

また、情報を広げるための学習材として経済産業省資源エネルギー庁発行の資料集を用意しておく。これは、再生可能エネルギーのことだけではなく、世界で起きている環境問題や、エネルギー資源の種類や消費量のことたくさんの図表や写真を取り入れながら説明されているものである。そのため新聞に書いていく時に、エネルギーについて幅広く取り扱うことができる。

さらには、並行読書材として再生可能エネルギーに関する本や図鑑を、館山市図書館で申請して用意しておく。これらの並行読書材を単元を通して読むことで、幅広い知識を得られたり、新聞を作る際の編集会議で構成を考えやすくなったりできると考える。

(5) 子どもの実態 (男子14名 女子14名 計28名)

子どもたちはこれまで「ぼくの世界、君の世界」の学習で、段落ごとに書かれていることの大体を捉えて、筆者がどのような論の進め方をしているのかを考えてきた。その後、「自分の見ている世界は、他の人と同じか」ということについて教材文を引用しながら、要旨をもとに自分の考えをまとめる言語活動を行った。文章の要旨を捉えたり、引用したりする力は付いてきている。

文章の要旨をまとめたり論の進め方を図示したりした学習内容は、単元を通して教室内に掲示をしておきいつでも確認ができるようにしておいた。

教材文「雪は新しいエネルギー」では、課題解決に迫るために筆者の多角的な視点で論が進められている。2・3時間目で段落毎の叙述の大体を捉えながら、筆者がなぜそのような論の進め方をしたのか、全体で話し合っていく。

4年生の「新聞を作ろう」では、①読む人に伝わりやすいような配置や分量、見出しを考える。②事実を正確に書く。(いつ・どこで・だれが・何を・どのように・どうした) ③内容がわかりやすくなるように、写真や図表などを入れる。の3つの観点で学習を行った。本時同様、相手意識をもって割り付けを考えることも行った。

5年生の「新聞を読もう」の学習では、新聞の仕組みを知り、それをもとに同じ出来事を扱った新聞記事を読み比べたり、内容や見出し、写真などについて気付いたことを発表し合ったりしてきた。その後、社会科の学習と関連付けて個人で新聞づくりをした。その際は、トップ記事(最も大切な記事)を第1面の1番目立つところに置くことに意識して新聞をつくった。今回の新聞づくりでは、筆者が多角的な視点で冷熱エネルギーについて述べているところや、教師自身の「再生可能エネルギーについて幅広い視点から新聞づくりを行わせたい」という思いから、トップ記事のように最も大切な記事を大きく取り上げるのではなく、幅広い視点で記事が書けるように割り付けの大きさについては自由とする。しかし「見出し」、「リード」、「本文」、「コラム」など新聞をつくる際に重要な語句や構成については、必ず授業内で振り返らせるようにする。

新聞づくりについては、今年度の社会科の学習でも取り組んでいる。縄文時代・弥生時代や貴族と武士について新聞にまとめている。社会科の新聞づくりは、個人で1枚作成しているので本学習で新聞をつくることに対しては抵抗なく取り組めるだろう。

(6) 指導観

〔見いだす〕

□本時(本単元)の目標(めあて・ねらい)を児童に明示する。

①学習の見通しをもたせ、主体的に学習に取り組ませるために、子どもたちと学習計画をつくる。

第一次では、教師が作成した再生可能エネルギーについての新聞のモデルを提示し、子どもたちに「自

分たちも書いてみたいな」という意欲をもたせる。さらには、みんなで作成した後に経済産業省資源エネルギー庁主催のかべ新聞コンテストに応募することも伝える。

そして、教師モデルを提示し、どのような学習をすればよいかを子どもたちと話し合うことで、学習の見通しを明らかにしていく。子どもたちは、教師のモデル作成の過程を参考にしながら、教科書教材「雪は新しいエネルギー」で新聞作成の練習をし、新聞コンテストに応募する質の高い新聞作成に進むことを共通理解させていく。

子どもたちと一緒に作成した学習計画は教室内に掲示し、学習の見通しをもたせ、どのような学習をすればよいかを明確にしておく。

また、新聞の編集に関わる既習事項も掲示し、常に振り返ることができるようにしておく。

〔自分で取り組む〕

□児童が自ら情報を収集し調べることができるように、環境等を用意する。

②新聞のテーマに合った情報を取捨選択できるように、様々な資料を用意する。

資料は、教科書内の写真や図表・経済産業省資源エネルギー庁発行の資料集・館山市図書館から借りたエネルギーに関する図書・インターネットの中から引用できるようにする。個人での新聞づくりでは、「雪は新しいエネルギー」についての新聞になるので、切り貼りができるようにあらかじめ教師が教科書内の図表や写真を全員分用意しておく。

グループでの編集の際は1人1冊資料集を配付し、グループでの新聞づくりでは資料を切り取り引用してよいこととする。インターネットにある情報については、教師があらかじめ選定したサイトのみを閲覧し、資料等を引用できるようにする。このように様々な情報を用意することによって、グループで新聞をつくる際に、文章と資料とがより関係付けられるものは何かを話し合える材料になるだろう。

〔広げ深める〕

□児童が多様な考えを理解できるように、互いに学び合う場面を設定する。

③グループで編集会議をして、自分の考えを発表し他者と比べたり再考したりする。

編集会議では、まず始めに個人で作った新聞はどのような構成で書いたのか、伝えたいことは何かを発表し合う。その後、グループの柱（テーマ）を決定していく。編集会議の内容は、①新聞で何を1番伝えたいのか。②どのような構成にするのか。③資料は何を使うのか。を中心に話し合う。その際には、A3程度のホワイトボードをグループに1つずつ配り、使用できるようにする。ホワイトボードを使うのは、作成をしていく過程で考えが変わった際に、すぐに修正ができるようにするためである。ホワイトボードに書いてある構成は、どのグループのも見られるようにする。会議が行き詰まったときに他のグループの構成を参考にできると考える。

〔まとめあげる〕

□児童が板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定する。

④授業の最後に日記を書かせたり、単元の最後に3観点で学習について振り返ったりする。

授業の終わりに、国語日記（学習してわかったこと・友達の発表を聞いて思ったこと・新たにわかったこと・考えが深まったこと・考えが変わったこと等）を書かせるようにする。この日記によって、単元を通して自分の考えの変容を見ていくことができる。この学習では、グループで編集会議も行っていくので、考えが変わったり深まったりすることが期待できる。

また、単元の最後には3つの観点（①新聞づくりを個人とグループで試みてどうだったか。②この単元でわかったことは何か。③この単元で自分に身に付いたことは何か。）で自分のことを振り返られるようにする。この3つの観点で振り返ることによって、子どもたちに達成感や成就感を味わわせたり、メタ認知能力を高めさせたりすることをねらう。

4. 全体指導計画（11時間扱い）

次	時	主な学習活動	○教師の留意点 ☆評価（方法）	
第1次	1	着語読みをする。 単元計画を立てる。 ・教師モデルと出会い、単元のゴールを知り、学習の見通しをもつ。	○着語読みによって、文章の言葉について説明を加えながら読んだり問いかけたりして、文章に書いてある内容の大体を捉えさせる。 ☆「雪は新しいエネルギー」を読んで理解したことをに基づいて、感想や考えをもっている。(㊟ノート・発言)	並 行 読 書 ↓
第2次	2 ・ 3	教材文「雪は新しいエネルギー」の要旨を捉える。 ・段落分け ・再生可能エネルギーとは何か。 ・冷熱エネルギーのメリットデメリット ・筆者のまとめ	○段落分け、段落に書いてあることの大体を考えながら、筆者の論の進め方を捉えさせる。 ☆文章の要旨と筆者のまとめを読み取ることができている。(㊟ノート・発言)	
	4 ・ 5	「雪は新しいエネルギー」についての新聞を個人でつくる。	○すぐに資料を使えるように、教科書内の図表や写真を全員分準備しておく。 ☆教材文を読んで、わかったことを基に要約をしながら新聞にまとめている。(㊟新聞)	
	6	新聞をつくるグループ分けをして、個人でつくった新聞をグループで共有する。 教師モデルとかべ新聞コンテストの大賞作品の分析をする。 新聞をつくる際の虎の巻を確認する。	○新聞に載せたいテーマを基に、3人グループを構成する。 ○これまでに学習した、新聞のまとめ方を基に、レイアウトを確認させる。 ☆新聞をつくる際の構成について理解をしている。(㊟ノート・発言)	
	7	編集会議を開く。 グループで構成を考える。 まとめたい内容に必要な図表や写真を集める。	○新聞の構成を考えやすくなるようにホワイトボードを用意する。 ☆新聞づくりをするために、グループで進んで話し合おうとしている。(㊟発言)	
	8	新聞をつくるための取材をする。	○子どもたちの必要に応じた資料を用意しておく。 ☆新聞をつくるために、進んで取材しようとしている。	
	9	「再生可能エネルギー」についての新聞をグループでつくる。	○1つの新聞を複数で編集ができるように、様々な紙の種類を用意しておく。 ○前時で話し合った、ホワイトボードでの構成を基に新聞をつくることを伝える。 ☆文章と図表を結びつけながら新聞をつくるができている。(㊟新聞・発言)	
	10			
第3次	11	完成した新聞の共有をする。 ・新聞の良かったところを付箋に記入し、伝え合えるようにする。 学習の振り返りをする。 ①新聞づくりを個人とグループで試みてどうだったか。 ②この単元でわかったことは何か。 ③この単元で自分に身に付いたことは何か。	○3観点で振り返らせることで、達成感や成就感を味わわせ、自己の成長に気付かせる。 ☆単元全体の学習について、振り返ろうとしている。(㊟ノート・発言)	

5. 本時の指導（9／11）

（1）目標

読者を意識しながら、文章と図表などを結びつけるなどして、グループで新聞づくりをすることができる。（【思考力・判断力・表現力】C（1）ウ）

（2）展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問 ・子どもの反応	○教師の留意点 ☆評価（方法）
2	1. 学習計画を確認する。 グループごとに新聞づくりをしよう。	○子どもたちがすぐに確認できるように、教室に学習計画を掲示しておく。
3 5	2. 新聞づくりを行う。 ・太陽光発電の記事はこの白紙の紙を使おうと思うけど、みんなどう思う？ ・この記事は、こっちの写真の方が合っていると思うな。	○これまでに行ってきた3人組で、机を合わせて新聞づくりを行うようにさせる。 ○教室に各割り付けごとのコーナーを設定し、グループの目的に合った用紙を選べるようにしておく。 ○新聞づくりが進まないグループには、構成について記してあるホワイトボードを基に作成することや、自分で情報収集をした図書や資料から引用をするなどの声掛けをする。 ☆文章と図表を結びつけながら新聞をつくることができる。（◎新聞・発言）
5	3. グループで新聞づくりの進捗や次時に行うことの確認をする。 ◎虎の巻のポイントについてグループで振り返りをしましょう。 ・文章が長いからもう少し短くできるようにしよう。 ・まとめた文章と選んだ写真は合っているから次の時間も気を付けていこう。	○編集会議で話し合ったホワイトボードと本時でつくった新聞を照らし合わせ、本時の進捗と今後の新聞づくりの見通しをもつ話し合いを行わせる。 ○掲示してある虎の巻を基に、話し合いを行わせる。
3	4. 国語日記を書く。 ・新聞をつくる前は、簡単につくれると思っていたけど意外と難しかった。 ・最初は文章が多い方が良いと思っていたけど、友達の見解を聞いて関係する写真なども多く入れた方が良かったことがわかりました。	○今日の学習を通して、考えが変わったところ、うまくできたところ、次の授業で改善したいところなどを書かせるようにする。